

青農経 × 市議会



会長 野澤 智宏さん



副会長 横山 剛史さん



渡邊 寿章さん



藤井 優さん



上野 孝明さん

今回は、「真岡市青年農業経営者協議会(青農経)」の皆さんにお越し頂きました。

この会は、概ね30歳までの農業従事者で組織する4Hクラブを卒業したメンバーで構成され、栽培技術の向上に向けた研修会や現地検討会、市長との話し合い事業などの活動を行っています。

農業をはじめたきっかけは

- ◆東京で就職・結婚をし、「このまま東京で生活するんだろうな」と思っていました。しかし、子どもの体調不良をきっかけに、東京での子育てに不安を感じ、イチゴ栽培をしていた実家に戻りました。
- ◆農家に生まれ、小さい時から手伝いをしていたので、何の迷いもなく就農していました。

農業をやって良かったことは

- ◆サラリーマンでは給料が決まっていますが、農業は頑張れば収入が増えます。試行錯誤しながら納得いくものが出来た時にやりがいを感じます。
- ◆作物は子育てと同じ。娘が2人いますが「イチゴが長女」という感覚になるくらい愛情を注いで育てています。
- ◆イチゴは収穫が始まると、休みが取れないほど忙しいが、農閑期には趣味や家族との時間をまとめて取ることが出来るところです。



担い手確保の可能性はまだある！

今だから話せるエピソードは

- ◆農業は自然が相手なので気を使って育てていても、自然災害や病害虫によって一瞬で作物がダメになる事があり、そのたびに自然の力を思い知らされます。
- ◆イチゴの育苗期に子どもが病気になり、救急搬送されることがありました。イチゴの苗は、失敗すれば年間収入がなくなる可能性もあるため、すぐに病院に駆けつけたかったのですが、親ではなく経営者としての判断を優先し、苗の管理が終わってから病院に駆け付けました。幸い大事には至りませんでした。今でも苗の水やりをしていると、その時のことを思い出しくなります。

真岡の農業を元気にするには

- ◆生きるために大切な「食」を担っている農業をもっと皆さんに知って欲しいです。生産者と消費者が交流できる機会があればと思います。
- ◆同世代のお父さんと話をしていると、農業に興味を示す人がいて、新規就農を決めた人もいます。30～40代のサラリーマンには農業に興味を持つ人が少なからずいるので、そういう人たちの背中を押すイベントやセミナーを開催すれば就農につながるのではないのでしょうか。

